

地方創生の最前線を追って

— 6 —

『富士宮高校会議所』

富士宮市内の5高校の生徒が地域活性化に高校

「グラウンドワーク三島」事務局長で都留文科大学文学部特任教授の渡辺豊博さんを講師に迎え「まちづくり座談会」を開いた。

まちづくり座談会で富士宮の活性化に活発な意見交換

「グラウンドワーク三島」事務局長の渡辺豊博さんを囲み、富士宮高校会議所のスタッフがまちづくりへの役割を再認識



土宮高校会議所」はさきごろ、西町レトロ館で「グラウンドワーク三島」事務局長で都留文科大学文学部特任教授の渡辺豊博さんを講師に迎え「まちづくり座談会」を開いた。

一般市民を交えた座談会では、渡辺さんの講話の後の座談で一般市民からの質問も相次ぎ活発な意見交換が行われた。渡辺さんは、日本で初めて市民・NPO・行政・企業がパートナーシップを組むグラウンドワーク（環境改善活動）を行う「NPOグラウンドワーク三島」を立ち上げ、「水の街、三島」のイメージを掲げ、ドブ化した源兵衛川の水辺再生、水中花三島梅花藻の復活、松毛川周辺の貴重な河畔林の保護活動など学校ヒートアップの建設、住民主体による遊水地の計画づくりと維持管理など60余のプロジェクトを実践して、「三島の活性化を成功させた立役者」としても知られる。

東京農工大学農学部農業生産工学科を卒業後、静岡県庁に入庁、農業基盤整備事業の計画実施に携わり、企画部空港対策課主幹・農地森林部農地計画課主幹などを経て、農学博士号取得後には都留文科大学文学部社会学科環境コミュニケーション創造専攻教授として日本で最初の富士山学や市民活動論・地域環境計画論・NPO実践論・地域環境計画ゼミなどを開講、2016年からは同大学の特任教授を務めている渡辺さんは、富士山クラブ・富士山エコネット・富士山測候所を活用する会の事務局長や専務理事を歴任、測量士で環境カウンセラー（市

「グラウンドワーク三島」の渡辺事務局長と座談会で活発な意見交換を行った富士宮高校会議所スタッフ

一般市民・高校会議所スタッフとの座談会に続いて、高校生を中心に座談会も行われ、渡辺さんを囲んで、高校会議所のスタッフは、富士宮をどのように活性化したらよいか、高校会議所の活動を展開していく方法など、これからの事業の可能性と展望を考える活発な意見交換を行った。

高校生会議所のスタッフは、市民力・地域力を集めた地域活性化に渡辺さんの講話で意識を高め、まちづくりへの高校生としての役割を再認識しあった、という。